

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200233		
法人名	ベターライフ建築事務所		
事業所名	グループホーム いっぽ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字箕原3067-2		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月30日	外部評価確定日	平成29年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームいっぽは豊かな自然に囲まれ、家庭的な環境のもとで、認知症のお年寄りに安心して生活していただいています。住居はお年寄りにやさしい一定の温度を保ち、リビングも夏はエアコン、冬は床暖房ですごしやすい環境を作っております。さらに、食事を楽しんでいただける様に対面式の台所で協力してそれぞれの好みや体調に配慮しつつ、美味しい献立になるよう工夫して喜んでいただいています。入居者の健康チェックは近隣の医師と緊密に連携し、状態の変化に素早い対応を心掛け、健やかに過ごしていただいております。さらに、入居者のご家族とも頻りに面会頂いたり、定期的な通信による情報提供をはじめ、様々な機会を生かして交流いただけるよう心配りしています。また日々のメリハリある取り組みの中で認知症の進行を緩やかにできるよう努力しています。その中で、入居者のできることを引き出してその能力を維持できるように注意しながら、介助しています。そしてなにより、家庭的な雰囲気大切に、それぞれの入居者が、穏やかに、ゆったりと暮らしていけるよう、職員一同心配りしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はみやき町北部の中原駅近くに位置し、周りには田園が広がっている。夏には、傍を流れる川辺を飛び交う虫も楽しむことができる自然豊かな環境である。職員は利用者が、住み慣れた地域の中で、その人らしく安全に穏やかに過ごしてもらえるように、一丸となって日々の支援に取り組んでいる。今年度は特に、地域との交流及び外出支援の推進を図っており、これまでに参加したことのない地域行事にも出掛けて地域の人と交流したり、「いっぽ叶えます」と題した企画をし、利用者の馴染みの食堂や商店での買い物、公園の花見等を行っている。日々の暮らしでは、利用者と一緒に台所作業をしたり、介護度の高い食事介助を要する利用者にも箸を持ってもらったり、おむつを使用されている利用者トイレでの排泄支援を行う等、利用者一人ひとりの残存機能を大事にした支援にも取り組んでいる。環境面では浴室にリフトや暖房器具を設置しており、寒い季節の安全な入浴支援に繋がっている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員事務室に理念の全文、朝礼用の簡易版をリビングに貼りだし、毎朝唱和するとともに日々介護の実践の場で生かすよう努力している。また、昨年行動指針を新たに定め、毎朝唱和している。	「高齢者の人生に敬意をもって奉仕し、より安全で快適かつ穏やかに暮らしていただくために、残存機能の維持向上を目指し介護介助する」を理念としている。また、理念を基に「いっぽニコニコ4ヶ条」「私たちの使命」と題する行動指針も作成している。朝礼での唱和を始め職員会議等でも話し合い、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の一員として、地域の清掃や区役に参加している。近所付き合いによって、菖蒲園やひまわり畑を訪問して交流を図っている。また、隣の畑の農家とも交流して農産物を頂いたり、食事や行事に招いたりしている。このところは、様々な企画で地域のボランティアに来ていただいたり工夫をしているところです。	近隣者とは利用者共々挨拶や言葉を交わし合い、時には、野菜をいただくこともある。自治会にも加入して清掃活動等にも参加している。事業所の行事には地区の区長、民生委員、顔馴染みの方等を招き、利用者と一緒に交流している。また、地域の芸能ボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事ごとで、区長様、民生委員様、地域の住民の皆様に参加頂いたりして、入居者との交流を促して、認知症に対する理解を深める契機をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、鳥栖広域、区長様、民生委員様、ご家族に参加頂いていっぽのサービス提供状況や課題など報告し、ご意見をいただいているべきサービスになるよう生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、区長、民生委員、家族、行政職員等の参加を得て開催しており、運営状況や、行事等の報告、質疑応答等が行われている。参加者からもそれぞれの立場から情報提供があり、サービスに活用している。不参加の家族には、後日、会議内容を報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的なあんしん相談員の方の訪問をうけたり、地域包括支援センターの開催する「地域ケア会議」に積極的に参加して、市町村との連携を図っている。	管理者は行政主催の会議に出席したり、時には、行政の窓口を訪問し、担当者との情報交換や課題解決の相談等を行っている。2ヶ月ごとに安心相談員の訪問も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的に学習会を行い、身体拘束をしない介護を目指すと共に、どうしてもそれを実施しなければならなくなった場合は、身体拘束禁止のための委員会を定期的に開催することになっている。	職員は学習会等を通して身体拘束の禁止行為を理解し、拘束のない支援を行っている。玄関も昼間は施錠されておらず、自由に出入りができる。玄関脇にはセンサー式のチャイムを設置しているが、まずは、職員の見守りで見守り、外出希望時にはさりげなく付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部の研修に参加したり、定期的に勉強会などを行い、職員のアンケートを実施して、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修で制度の内容を理解すると共に、成年後見制度利用の利用者もいらっしゃるため、実践的に理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、入居契約書・重要事項説明書などを通して十分に説明し、納得していただいた後契約できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関のわかりやすい所にご意見箱を設けている。また、毎月1回のいっぽ新聞に近況報告をしたり、面会時に交流してご家族の意見を取り入れる努力を行っている。	面会時や行事参加の折に繰り返し声をかけ、意見や要望等を聞くように努めている。また、家族に毎月届ける便り(いっぽ新聞)でも問いかけている。要望等が出された時には、速やかに検討しサービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者および管理者は、処遇改善の給与への反映はじめ、外部研修にも積極的に取り組んでいくよう呼びかけ、継続して外部研修の機会を持っている。また、定期的な会議や最近では携帯電話のラインなども利用して情報の共有や円滑化に努めている。	管理者は毎月の職員会議や勤務の中で職員の意見や提案等を聞き代表者にも伝え反映している。代表者も来所の折には、職員に声をかけ話を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上記の様に、内部的な学習のみならず外部研修の機会を十分確保できるように運営し、またそうした結果を全体に報告、広めるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の様に、内部的な学習のみならず外部研修の機会を十分確保できるように運営し、またそうした結果を全体に報告、広めるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加のみならず、グループホーム協会主催の勉強会などにも参加して、相互交流を深めています。		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人及びご家族へ要望・不安なこと・困っていることを把握するために十分に話を聞くようにしていき、生活の中で本人の言葉・様子などを記録し今後に活かせるようにスタッフ同士で情報共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後の面談時にお話しをお伺いしています。また、いっしょにご家族が来所された場合、ご家族へのコミュニケーションを大事にし挨拶及び普段の様子を長すぎずに手短にお伝えするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状態で、ご家族と話し合いを設けて他のサービスを利用できるように検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物の片付け、料理のお手伝い、料理後の片付けなど入居者にもできることをやって頂き、ともに暮らしていく一員として意識して頂ける様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の現状をご家族に伝える機会を増やして、ご家族とも協力して入居者の健康状況、出来る活動を維持できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コーラス・サークルへの継続した参加をして頂いたり、お正月・お盆の時に帰宅頂いたりしている。もちろん、ご家族・知人の面会を積極的に受け入れたり、様々な行事への参加もお願いしている。買い物などで馴染みのお店へ連れて行ったり、馴染みの場所へ連れて行く等の工夫も行う。	職員は利用者の馴染みの人や場所等を把握しており、「いっぽ叶えます」と題する企画をし、利用者の馴染みの食堂や商店、公園等に出掛けている。知人の訪問時にも、ゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。また、家族の協力を得ながら、以前から楽しみに参加されていたサークルへの参加等も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのレクリエーションやいろいろな機会でも利用者間の交流を促すよう努力している。良い方向だけでなく、小さな衝突もあつたりするができるだけお互いを理解・尊重していただけるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族を通じたり、また移動先にも足を運び、状況を把握するよう努めている。また、ご家族の相談・支援に取り組むよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「いっぽ叶えます」の企画などを通じてそれぞれの利用者の希望ややりたいことを引き出すよう工夫して、それぞれの望むが実現するように努力している。また、意思疎通が困難な方については、これまでの生活歴を参考にしたり、ご家族様よりお話をうかがって、日々の介護に生かしている。	日常の会話や表情等から利用者の希望や意向等を把握している。意思の疎通が困難な場合には、生活歴や家族の情報等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との交流なども得て、一人一人の利用者の生活歴やなじみの経験、嗜好などを把握するよう努めている。そうしたことを通じて、会話の内容やほかの利用者への紹介などにも工夫するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況について、記録したり、職員間では申し送りを行い、情報の共有に努めている。また、利用者様のできることについては、介護の行き過ぎを抑え、利用者にもしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活状況から、本人・職員・家族・主治医等に意見を聞き、介護計画について話し合いを行い、作成している。	本人・家族の希望や意向、及び、主治医の意見等を確認して職員間で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングと見直しを行い、かつ状態に変化が生じた時には、速やかに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践を介護記録に毎日残し、また新しい状況変化なども介護記録に記入し、今後の計画作成に生かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	たとえば買い物したいなど利用者本人様の要望に耳を傾け、できる限りこたえられるように、努力している。また、「いっぽ叶えます」のような頻回ではないが利用者一人一人の希望に添った企画も実現しつつある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の農家さんの野菜差し入れ、また、地域ボランティアのサークルから行事への参加など実現して、入居者の地域とのつながりを強めるようにしている。結果として、認知症への地域の理解も深まっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の上野医院の医療連携を説明して、異常の早期発見・緊急時の対応など適切に行っている。また、専門の医療機関にも状況に応じて、ご家族の理解・協力を得て受診支援を行っている。	本人や家族の希望される主治医の受診を支援しており、主治医の変更も家族の希望でなされている。基本的に通院は家族の付添であるが、状況に応じて職員も同行し、適切な受診ができるように支援している。協力医による定期的な訪問診療も行われており、万一時は夜間の受診も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全職員、入居者の状況把握に努め、変化があれば看護師等に申し送って連携を図っている。また、看護師等より主治医へも連絡し速やかに適切な指示を受けるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報提供は、主治医と連携して適切に実施している。また、入院先の主治医などより求めに応じて利用者の状況を報告し、早期の退院のため協力したり、面会などで利用者を励ます努力している。また、各病院の地域連携室などとも交流し、円滑な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の症状が重度化した場合、どういふ対応を行うか、入所時に確認することから始めている。実際に重度化したとき、ご本人・ご家族・主治医と十分情報を交換しながら、いっぼでの対応を行っている。終末期に、医療機関での治療以外で静かに看取る希望が出た場合は、応えるよう努力している。	契約時に終末期の支援に係る指針を説明して意思の確認を行っている。重度化や看取りの支援を要する場合には、主治医からの説明を基に家族の意向を再確認し、主治医を始め関係者と連携し、事業所のできる最大限の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の健康状況が悪化した場合のマニュアルを整備し、速やかに適切な対応ができるよう努めている。特に、職員の応急処置について主治医の指示を得ながら適切に行えるよう連絡網等活かした訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回は実施し、特に夜間の火災を想定した訓練を必ず年1回消防署の立ち入りを得て指導してもらおうと努める。また、風水害・地震など災害の危険が迫った場合に備え、連携施設への避難訓練なども実施している。	年に2回、消防署の協力も得ながら、昼夜を想定した、火災時の通報、消火、避難訓練を利用者の参加も得て実施している。今年の豪雨時には、傍の川の増水が心配され、併設施設への避難をしている。今のところ、近隣住民の訓練への参加協力と夜勤専門の職員の訓練への参加を得るまでには至っていない。	益々の安全な体制作りのためには、職員だけの避難誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た、避難誘導等の訓練に取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を十分尊重して介護・介助するよう言葉かけなどにも注意を払っている。また、それぞれのプライバシーを損ねない様に学習会や研修などにも力を入れている。	接遇研修も行われており、職員は利用者の人格に配慮しながら、優しい笑顔で声掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、介護者主導の生活でなく、入居者の皆さんの思いが生かされる様にそれぞれの希望を伺い、選択する機会・場面を作るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の取り組みについて、入居者があくまで主人公になれるように気を付けている。体操・レクリエーションなどについても押し付けでなく、「入居者がしたくない時にはしないでも好い」態度で接しています。一方で、皆さんの積極性が引き出せるように様々な工夫をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれについて、それぞれの個性を尊重して支援していく。それぞれの好きな色、好きな洋服などを着用できるように心がけている。結果として、日々の言葉かけにも注意してその日その日の整容支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けなどそれぞれの利用者のできる事を協力して頂き、食事をともに楽しめるよう工夫している。また、それぞれの健康状況に合わせ、好きな食べ物を考慮した献立を考えて、食事を提供している。職員も利用者とともに同じ食事をとるようにしている。	利用者の力量に合わせて、一緒に食材の下拵えや食器拭き等の後片付けを行っている。食事の時には、職員も一緒に楽しい雰囲気の中で同じものを食べている。利用者の咀嚼及び嚥下機能等に合わせた食物の形態にも配慮している。介助を要する利用者にも箸を持ってもらう等、残存機能の維持への支援も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養状況、水分量について、それぞれの状況に合わせて適切な栄養を提供して、記録に残す。それぞれの病歴や習慣に合わせて、塩分や盛り付けの量、刻み食、トロミつけなど工夫して、十分な確保を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下障害や口腔内清潔保持のため、口腔ケアを定期的実施している。必要な入所者には歯科の支援も頂き、口腔ケアを強化している。食事前の口腔ケア体操も必ず実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用の利用者でも、排泄頻度などを把握してトイレ誘導を行い、極カトイレでの排泄を促進している。	介護度が高く、おむつを使用されている利用者も排泄パターンやサインを把握し、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、一人ひとりの排泄機能に合わせて下着も準備している。トイレには合図用の鈴が下げられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便(周期や便の硬軟など)の状況に注意を払い、それぞれの利用者の食事量・水分量なども考慮している。さらに、便秘薬なども主治医と相談して適宜調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については、出来る限り希望日に入浴できるよう注意すると共に、安全に清潔を維持していけるよう設備を利用して実施している。必ず職員が必要な人数配置して、安全に入浴できるように実施している。	利用者の希望や体調に合わせながら、週3回の入浴支援を行っている。入浴を拒否される時には、無理強いせず、時間や日にちを変更して対応している。また、異性の介助を不安がられる時には同性の職員が対応している。浴室には暖房設備とリフトが設置されており、安全性に配慮した環境が作られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者のそれぞれの生活習慣について十分考慮して、一律でなくゆっくり就寝できるよう気を付けている。毎日の気温や気候など、就寝するお部屋の環境にも十分気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に病歴の正確な把握・服薬状況の把握を行い、それぞれの薬の目的と共に副作用なども把握している。同時に便秘薬など、それぞれの日々の健康状況も把握して服薬する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの好み、生活歴などを理解して、レクリエーションや行事ごとなど楽しみのある生活を送れる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力も得て、馴染みの場所への外出の機会を作ったり、季節を感じて頂くためにも季節ごとに美しい自然と触れ合う機会を作ったり、買物のためにも外出の機会をつくったりしている。	気候の良い時季には日常的に散歩をしている。また、季節ごとの花見や地域の行事、買物等にも出掛けている。個別の外出は家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力もいただいて、小遣いを持ちたい利用者にはお金を所持して頂き、買物の機会をもって使ってもらったりしている。また、一人一人の小遣い帳をつくり、厳密に用途を管理して、ご家族に定期的に報告し残高管理など実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡を希望される利用者には随時実施している。グループホームとしては、月1回のいっぽ新聞をそれぞれの方の近況を加えて発行し、ご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である(リビング、廊下、トイレ、浴室、台所など)は、清潔を保持し、外の光、空気も取り入れながらも常に温度・湿度など快適な状況を作るよう努めている。	居間兼食堂には家庭的雰囲気との調度や家具が置かれ、対面式の台所からは、調理の音や匂い等が流れている。また、居間兼食堂には床暖房を設置しており、加湿器を併用し、気温・湿度の管理を行っている。廊下や居間の壁には利用者の写真を分かりやすいように拡大して掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファと机、テレビ等を配置して、利用者の特性も考慮しながら、座る場所なども考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれの入居者の個性が生かせるよう工夫し、入居者が自らの部屋と意識できるように写真なども含めてなつかしいものを配置する様に工夫している。	職員は家族に利用者の馴染みの品の持ち込みを勧め、居心地の良い安心できる環境作りを支援している。家族の写真や飾り棚、人形等の飾り物、カレンダー、時計、テレビ等が見受けられる。また、壁には職員から利用者への心とむ感謝の言葉等が飾られている。それぞれの居室の窓からは、四季折々の田園風景を眺めることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や浴室など表札で解り易く示し、それぞれの入居者の一日の流れなども貼りだして、「できること」「一日の流れ」などわかるように示している。また、手すりなどを配置して安全な環境となるよう工夫している。様々な契機で入居者のできることをやっていただくよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない